

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



神邊分教会神殿

静かな住宅街に所在する (9月10日 撮影)

さあ！おたすけ 祈る 動く つなぐ

おたすけ・お願いカード 集計：79,526枚

平成27年7月21日～8月20日

累計：1,199,557枚

一万人のおちばがえり

集計：972人

累計：5,208人

平成27年 1月1日～8月20日

立教178年
9月号



アートバルーンは楽しいな

2015/8/21

**「テッチャン
シアター」開催**
8月月次祭後
少年会

少年会笠岡団(武内正美団長)では、8月21日(金)、大教会祭典のあと「テッチャンシアター」を開催させて頂きました。
今回の担当は少年会委員の雑賀元生先生です。

アートバルーンの世界へようこそ

(一)(二)

神殿には色取り取りの風船が運ばれてきました。普通の風船が雑賀先生の手によっていろいろな形に変わっていきます。黄緑色の風船は、ぶどうのマスクットになり、そして紫色の風船は、ぶどうのピオーネに：タコになった風船もありました。「こんなふうにな：こいうふうになっていきますよ。」と子供達の目の前で説明している時、「あつ!!」と思った瞬間、「パン!!」と割れるハプニングも：。

最後は、雑賀先生とジャンケンをして、好きな形の風船をもらって解散。昼食のあとカキ氷を頂きました。
(少年会委員 丸山哲子)

よふぼく勉強会開催
テーマは「お道と社会」
8月月次祭後
育成部

育成部(吉岡壽部長)では8月21日祭典終了後、会議室に於いて、瀬藤友昭大恵山分教会長を講師に迎えて「お道と社会」をテーマによふぼく勉強会を



2015/8/21

「自分に出来るおたすけ」を語る

開催、21人が参加した。

瀬藤先生は、冒頭に立教178年天理時報元旦号の真柱様のお言葉を引用され、「様々な問題を抱える現代社会の中でよふぼくの奮起と実動が求められている：」と紹介され、その後、先生が現在勤めている通信制高校での校長という立場の中で、今、自分にできるおたすけとは何かを求めながら入学生・在校生、またその父兄に対しての心の支援と、そして道の教職員として、教会でできるおたすけの取り組みについてお話し下された。

毛布襟付けひのきしん
9月3日・4日
婦人会

婦人会笠岡支部(上原きよ紀支部長)では、9月3・4日の両日、詰所宿泊者・大教会信者室用の毛布襟付けひのきしんを大教会講堂を中心に各部屋で行った。3日は午後1時から3時。4日は午前9時半から午後1時半まで。参加者は次の通り。3日、55人。4日、75人。少年会員4人(男性も含む)。



手際の良い婦人会のひのきしん



舞台の上からグライダーを飛ばす

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、8月15、16の両日「あらしとつりよう入門塾」を開催し、高校生7人が参加。初日はバーベキューや、グループワークで親睦を深めた。また夕づとめ後には、大教会長様より「あらしと

あらしとつりよう入門塾
開催
 8月15日・16日
青年会



練り合う青年会員

つりようの役割」についてお話があり、参加者は熱心に聴き入っていた。翌日は、早朝より教会内ひのきしんに汗を流し、その後、上原委員長が講話。最後は全員で、グライダーを作りをし、少しでも遠くまで飛ばすようにそれぞれが試行錯誤しながらグライダーを完成させた。

参加者は、プログラムを通して自分が青年会員であるとの意識を高め、同じ笠岡に繋がる者どうしの絆を深めた。



何と言っても楽しい食事

少年会笠岡団(武内正美団長)恒例のサマーキャンプが、高知県室戸市(室戸青少年自然の家)を会場に、8月22日から24日にかけて2泊3日の日程で開催されました。このキャンプは、火・水・風の親神様の御守護を肌を感じるとともに、たすけあいを実践し、そこ

第18回笠岡回野外錬成会
(キャンプ)開催される
 8月22〜24日
少年会

初日はテント設営、飯ごう炊飯、夕日見学。

2日目、海水浴。内海と言えどもかなりの波。波に立ち向かい倒される者、浮き輪に乗って波に身を任せる者、それぞれ波を楽しみました。海水浴とは、海で泳ぐものではなく、海水を浴びるもの。だから浴(よく)なのだとも実感した一時でした。

その夜はナイトウォーク。暗闇の中を懐中電灯を頼りに歩く。先頭のM先生が道を間違えた。全員遭難か? 「引き返せ」の号令のもと、無事元の場所へ。暗闇だから怖いですが、実は大したこ

に喜びと感謝を体得する、少年会員の育成を目的に、実施される行事です。

台風が接近、雨、風、波を心配する中、22日、室戸に向け出発しました。太平洋に出ると景色は一変、打ち寄せた波は岩に当たり大きく砕ける、瀬戸内海では考えられない。波しぶきはそのまま霧となり山へと昇る。何ともすごい光景だ。皆が楽しみにしている海水浴をあきらめざるをえないような状況だ。が、そうした心配をよそに、3日間、雨が降ることもなく、風が吹くこともなく、無事に予定通りプログラムを遂行することができました。



坂本龍馬と共に

とはない。見上げた空は雲の影響で満点の星空とはならないが、いつもは見えない星まで見える、実にすばらしい。バスで移動中に野ウサギを発見。班ミーティング終了後、「くわがたを捕りに行きたい」との声、カウンセラー同行で渋々OK。帰って来ると一様に笑み。そのはずだ、実にたくさんの方々がいたほどだ。



室戸岬での記念写真

普段味わう事のできない自然を体感し、助け合いの大切さを実感した2泊3日でした。今年の野外錬成会、天気を始め、病気・けがもなく、御守護の中に無事終わらせていただきました。ありがとうございます。

参加者は39人(少年会員26人・育成会員13人)。

(少年会委員 掛谷宣和)



福富士隊

感想 狭い教会でのお泊まり会、子ども達の意見では、いつまでも居りやすいといっています。数を増やして居りやすい場へ。悩み事を話しやすい場へと移っていく事を希望し

教会おとまり会の報告

▼福富士隊

実施日 27年8月6日〜7日
参加者数 少年会員9 育成会員3
合計12

内容 おつとめ練習 他。

▼海松ヶ岡隊

実施日 27年8月9日〜10日
参加者数 少年会員22 育成会員10
合計32

内容 ゲーム、室内オリンピック、他。
感想 楽しそうでした。

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていますので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽9月6日付「時報歌壇」

・福満◎ 福島悦子さん

敗戦を予言しつつ逝きし父の
七十年の夏まためぐり来る

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

時鳥の声聞きながら丁寧(丁寧)に
折りたたんでいく餃子のひだを

▼『陽気』誌9月号「道柳」より転載。

▽佳 詠

・東悠◎ 田林美智子さん

日々の事情根をたぐり寄せ神意とう

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

ます。



修養科での出来事

振り返って

米府分教会 小坂 和貴

本部での修養科生活が終わり、大教会で残りわずかの修養科生活を送らせて頂いていますが、振り返ってみて特にこどもおちばがえり期間でのお茶所のひのきしんでのできごとが心に残りました。

これからのことを自分の性格と関連づけて考えてみたいと思います。こどもおちばがえり期間でのひのきしんですがいくつかのひのきしんをさせて頂いたのですが、特にお茶所でのお茶配りの補助をするひのきしんが心に残りました。このひのきしんでは、少年ひのきしん隊をしている子供達の裏方で、教会の婦人会さん方とコップを洗ったり、やかんにお茶を注いで子供達に渡すひのきしんをします。そしてある一人の少年に目が留まりました。なぜかというとその子はいつも左手を

ズボンのポケットに手を入れていたからです。最初は帰って来られてる方に手をズボンに入れたままお茶を渡すなんて失礼だなと内心思っていました。

しかし、気になってその子を見ていると、手に指がないことに気が付きました。事故で指を無くしたのか、理由は分かりませんが、その子はずっと手を気にしながらお茶を配っていたのです。私はとつさに自分にも指が無かったら同じことができていたかと考えていました。今の私なら彼と同じ行動はできなかったと思います。引きこもっていたかもしれません。中学生である彼がこれまでどんな人生を送ってきたのか想像できませんが、いかな理由があっても人の前に出てひのきしんをしていく姿にはげまされました。これを自分の性格と照らし合わせてみると、私は今もですが、人の目はかり気にして自分の行動に自信がなくなってしまうのです。でも彼を見ていると、私はいつまで人の目を気にする人生を送るのだろうかと思わされました。中学生である彼が一步踏み出しているのに、私は情けないなと考えさせられました。

これから私はこのような自分を直したいので、自分を出すことが必要になると思いますが、そのきっかけとして、今更ですが、修養科はとて面白い場所になると思います。私はまだ自分を変えられていないですが、今後修養科に入る人達には思い切つて修養科で一步踏み込んでほしいと思います。以上のことから、自分を変えるには思い切つて一步踏み出すことが必要で、日常で一步踏み出すことは難しいが、修養科でならできるかもしれないと考えられる。私も残りわずかな修養科生活を一步踏み出すきっかけとしたい。

修養科を振り返って

真金分教会 猪原 安以

初めて修養科のハッピを着た時、すぐに帰りたいと思いました。自ら志願した訳ではないので、天理で3ヶ月の生活、天理教の勉強が嫌で嫌で仕方ありませんでした。ですが、親の身上、親の願いがあったので嫌々でも天理で3ヶ月過ごす決意をしました。

学校が始まり友達もでき始めた頃、嫌々だった学校でしたが楽しむことができてきました。人との出会いの中で、人の良い所を見たり、自分を見つめた

りました。そしてこの3ヶ月を無駄にせず、楽しむだけでなく、何か学んで成長して帰ろうと思えました。

修養科中、私の20歳の誕生日があり、余計にそう思ったのかもしれませんが、ここで出会った人たちは、いろんな経験してきた人や、違う考えを持った人、国が違う人などすごく面白い人たちでした。その人たちと出会ったおかげで私はいい経験ができました。外人が好きな私は、モンゴルの女の子と、コロンビアの数人の人と仲良くなり、文化や言語など教えてもらいました。また海外経験がある人とも仲良くなり、実体験を聞いたり写真を見せてもらったりしました。楽しいことを積極的に見つけにいつて、こんなに嬉しいことがありました。母に「何でも喜んで通らせてもらいなさい」といわれ、素直にそう過ごした結果を神様に見させて頂きました。修養科に來ただけで親は喜んでくれましたが、私が笑って元気に通らせてもらっている方がきつともっと喜んでくれるだろうと思います。親の身上も徐々に良くなっています。修養科来てよかったと思います。

す。

修養科生活を振り返って

多古浦分教会 古藤 博 信

今回、私が修養科に行こうと思ったのは、母親の身上がきっかけでした。術後しばらくして食事のどを通りにくくなり、1月末から入院となったのですが、その後2月中旬頃、理の親である伯母から修養科の話しを聞かされました。入院中の母親を置いて行くのを最初は考えましたが、何とか元気になるてもらいたいとの思いから行く事を決めました。

修養科入学当初はほとんど何も分からず不安で、3ヶ月間も出来るか分かりませんでした。今振り返ってみるとあつという間だった様に思います。授業もちろんですが、ひのきしんを精一杯頑張ってきた下さいとの理の親からの助言もあり、とにかく精一杯やらせて頂けたと思います。おてふりについては、座りづとめが少し出来るくらいだったのですが、みかぐらうたの方も何とか十二下りまでやってみて、台本をみながらなら何とか6割程度は出来るかなという感じになったと思います。別席の方も最後の一席に行かせて頂き、無事、おさづけの拝戴も頂く

事が出来ました。何よりこの3ヶ月間、一日も休まずに過ごす事が出来たのが嬉しかったです。

母親も今は1ヶ月に一度、1週間ぐらいの入院治療を続けていますが、1月の入院時から比べると良くなっているの、さらに元気になってもらえる様によぶくとして見守っていただけらと思つています。最後にこの3ヶ月間を十分に生かせる様に、今後も頑張っていきたいと思つています。

修養科で気づかされた事

苜品分教会 原 心一

「これから自分のやりたい事をやっていってほしい。ただ親が歩んできた天理教の信仰だけは続けてほしい。」3年前に出直した父が私に残した最後の言葉でした。この修養科に来るまでは、なぜ父がそこまでお道の信仰にこだわっていたのか分かりませんでした。3ヶ月終わって、正直それがすつきり理解できてはいませんが、気付かされる事が多くありました。まず今までの自分が毎日を当たり前だと思つて喜んで通れていなかった事です。この3ヶ月間に、いろいろな身上・事情を

見せられて、毎日健康に過ごせる事が当たり前ではないんだという事に気付かされました。また3年間もこのおちばで過ごさせていただきましたが、こんなにも空や神殿のきれいな、ご飯のおいしさなどに感動することはありませんでした。本当にささいな事ですが、喜んでいる事に自分自身でも驚いていきます。そして人との出会いです。この

修養科ではいろいろな事情や身上を抱えた人がいました。そういった人々と過ごす中で、理解できない事や不足に思つてしまう時も多くありました。しかしいろいろな人々と接する中でも気付かされる事がありました。自分にはそういう事がないのか、理解してあげるとためにはどうやって自分の心の持ち方を変えていけばいけないのかなど、深く考えさせられました。ここには全て書ききれませんが、こうした日々気付かされた事が父からのメッセージだったのではないかと思います。まだ父から直接聞きたかった事や相談しなかった事は多くありますが、これからはお道の信仰で見せられる事を父からの言葉と思つて自分自身の道を進んでいきたいと思つています。

最後にこの修養科で喜びや苦悩を共

にした同期の修養科生、先生、奥様方、3ヶ月本当にありがとうございました。

素直であること

雲東分教会 三代 友美

「素直に通らせてもらいなさい」素直が一番だよ。とは、私が修養科に行く前に多くの信者さんからかけていた言葉です。思えば私の修養科生活の課題は、まさにこの言葉でした。当初、どんな物事も楽しんで素直に学ばせてもらおうと意気込んでいたのですが、その意気込みが薄らいでいくのに時間はそれほどかかりませんでした。修養科の授業やひのきしんとは別のところで次々起る問題に頭を悩ませ気をとられ、何故こんな思いをしなければならぬのかと不足に思うようになってしまつたからです。また、特に親しい訳でもない人からおさづけを受けることに強い抵抗を感じていました。素直とはほど遠いところで迷っていることを自覚していながらも、それをどうすることもできずにいた期間はとても長くつらいものでした。それでも何とか物事を素直に受け入れてみよ

うと模索していた時、その状況を抜けるきっかけをくれたのは、同じ修養科の仲間でした。ある人は、私が他人の言葉を素直に受け入れられなくなってしまう理由を教えてくださいました。またある人は、どうすれば私が素直になれるのかを一緒に考えてくれました。

修養科に行かず一人で考えていたら絶対に持たない悩みを持ち、得られない答えを得られたのだと思つています。修養科を修了した今でも、課題は以前「素直」であることです。きっとこれからもそうであろうと思つています。ですが、以前と今とでは言葉の重みが大きく違っています。

修養科を振り返って

品治分教会 渡 邊 雄 大

私がこの修養科に来たのは親のすずめです。特別な身上、事情がある訳でもなくとりあえず3ヶ月帰らず通り切るといだけの思いで来させて頂きました。ですが、助かりたい助かりたいという考えや成長するために来たなど様々な理由で来られている方々の勇んで何事にも取り組む姿を見て自分からいゝんな事に挑戦する様に変わつて

いきました。

来たばかりの頃はやる気の無いような態度で不足ばかりを言つていました。そんな取り組み方から休んだ人の代わりにひのきしんに行くようになる程変わりました。ここまで前向きにひのきしんをしたり、お手ふりなどを真剣に覚えようと頑張れたのは詰所での人間関係や朝の神殿掃除などの辛い事を共に経験した人達がいたからです。この3ヶ月お道に深く関わつて声をかける大切さを一番よく知りました。たくさんの人と声をかけあいながら行動することで、一人では喜びながら出来ない事でも楽しく勇んで出来ることになりました。このことを経験したことで人に声をかけるようになりました。たくさんの人と話し、自分と違う考えを知つていゝんな出来事に柔軟に対応していける人になりたいです。

最後にこの3ヶ月の経験をいかして教人講習に参加させて頂きもつと深く教理を知りたいです。

八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに親心を尽くして御守護下さつております 加えて「どのよふな事をするのもみな月日 しんぢつよりのたすけ一ぢよ」と常に陽気ぐらしへとお導き下さつております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は喜び感謝の心一杯に朝に夕に御礼を申し上げますと共に「どのよふなたすけするのもしんちつのをやがいるからみなひきうける」とのお言葉を心に 御恩報じを思い念じてたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はお許し戴いた八月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には遠近を問わず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げますと共に七万九千五百二十六枚のおたすけお願ひカードを通してより一層のたすけにお縋りすべく 相共にお歌を唱和する皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今年の子供おぢばがえりも十日間の日程 大きな事故怪我もなく恙なくつとめ終えさせて頂き誠に有難うございました 千三百六名が帰参させて頂き仕込み伏せ込み行事やお楽しみ行事をしっかりと楽しんで頂いて 心に素晴らしい御土産を持ち帰らせて頂きました 又続いでのお学生生徒修養会には十四名の高校生が参加させて頂き一週間の共同生活を通じてお道の素晴らしさを御土産として持ち帰る事が出来ました 又大教会主催の英語講習会は三十二名参加で滞りなくつとめる事が出来ました 有難うございました そして明日からの三日間は少年会のキャンプをさせて頂きます 何卒事故怪我等のないよう皆を喜び一杯にお連れ通り下さいますようお願い申し上げます 更には又来月はをいがけ強調月でございます 加えて月末には全教一斉にをいがけデーでございますので 年祭活動仕上げの年にふさわしい活動にすべく 又十月二十五日の別席ひのきしん団参に一人でも多くの方に参加して貰う為にもしっかりと目標意識を高めて一手一つにをいがけおたすけにと励ませて頂く所存でございます

何卒親神様には 仕切り根性仕切り知恵でたすけ一条に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に自由の御守護を賜り たすけ一条の喜びに勇み立つ人が増して心晴れやかな年祭活動となりますよう御守護お導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百七十八年 八月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地方	役割	講話	祭主								
												区分			中村剛	大教会長様						
												坐り勤										
佐藤香苗	今川智子	虫明好美	杉原博之	門脇元教	三島涉	笹尾正治	森本忠平	上原浩	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	吉岡壽	上原繁道	大教会長様	山野弘実	上原志郎	中村邦義	今川昌彦	谷内伸自	大教会長様		
三島照美	森本富美子	内海安子	武内清明	吉岡誠一郎	森本忠善	高木昭祥	横山逸郎	今川昌彦	横山小智榮	谷内美知子	上原順子	中村道徳	中島誠治	中村剛	虫立生	山田敏教	佐藤道孝	指図方	上原繁次	山田敏教	秋季大祭講話	大教会長様
笹尾一美	高木孝子	門脇加津	赤木素志	上原繁次	渡邊隆夫	内海史郎	田林久嗣	佐藤真孝	岡崎和美	中村初美	武内正美	上原志郎	谷内伸自	中村邦義	浅野明教	岡崎真一	上原繁道	後半	佐藤道孝	山田敏教	大教会長様	

大教会だより

教会指令

稲瀬分教会

前任 三宅善久
新任 三宅道大



三宅道大氏

☆奉告祭 立教178年10月4日
立教178年9月6日承認

◎第八九〇期修養科

自 立教178年6月1日
至 立教178年8月27日

*教養掛

三ヶ月間 北川治史 (稲倉分教会長)

一ヶ月目 下田誠輝 (神村分教会長)

二ヶ月目 高田一弘 (眞府分教会長)

三ヶ月目 仙田公男 (天場山分教会長)

*修了者

輝美濃 松本直治
芦倉品 原心一
米倉府 濱田和貴
多古浦 小坂信
品治 古藤博
福輝 谷野雄大
八尋 西川春子
真金 猪原美紀
雲東 三友美

◎三日講習会修了者

立教178年9月6日終講
島根 辻井万喜子
國須 河田裕也
國須 河田紀子

◎第八七六期修養科一期講師

自 立教177年4月1日
至 立教177年6月27日
篠ノ川 津森朋之

◎第八八一期修養科一期講師

自 立教177年9月1日
至 立教177年11月27日
東水島 藤本芳久

◎第八八七期修養科一期講師

自 立教178年3月1日
至 立教178年5月27日
明石市 杉原博之

別席・ひのきしん団参

教祖130年祭活動仕上げの本年も、いよいよラストスパートの時期を迎えております。

笠岡大教会では、この三年千日の活動を、スローガン「さあ おたすけ！ 祈る、動く、つなぐ」と定め、具体的な活動例を掲げた成人目標の実践を通し、身近なおたすけに励んで参りました。各方面から数多くのおたすけの喜びの声も寄せられ、年祭の旬のお働きを実感させて頂いております。

その中、全教においては「別席場をいっぱい」を合い言葉に、連日おぢばは多くの別席者で溢れ、たすけの渦が大きくなうねりを巻き上げています。まさしく旬の動きをお見せ頂く中、来る10月25日は、真明組(芦津大教会)に繋がる六大教会合同の「別席団参」が実施されます。笠岡大教会では、帰参目標を2000名と定めさせて頂いております。

笠岡に繋がる私達一人ひとりも、「別席場をいっぱい」という動きに乗り遅れないよう、一人のよふぼくが一人の別席者を、また、一人が一人の帰参者をお連れしておぢばに帰らせて頂きましょう。

どうか最後の最後までおたすけに、声掛けに歩かせて頂きましょう。

【日 程】

- 11時15分 **おつとめ** (東礼拝場)
※真明組に繋がる大教会で勤めさせて頂きます
- 昼 食**
(別席者は昼食を済ませたら直ぐに受付に行ってください)
- 12時15分 **ひのきしん** 本部駐車場北側広場(東礼拝場前の広場です)
- 13時00分 ひのきしん終了
- 14時00分 **記念講演** 講師：藤田文雄先生(夕張大教会長)
- 15時00分 講演終了 日帰り便は帰路へ
- 16時00分 **模擬店開始**
- 17時30分 模擬店終了

(布教部長 田 中 隆 之)

計 報

三宅タケノ姉

作備分教会二代会長。九月十二日出直されました。
享年 九十九才



修養科生さんたちと共に御本部へ向かう朝の道、あんなにも喧しかった蝉の声がいつしか消えて、ふと見上げた空には秋の雲が浮かんでいる。修養科第89期1ヶ月目の教養掛として毎日が嬉しくありがたく、教祖のお膝元で充実した日々を送らせていただいている。これも会長が不在中の教会をきちんと守ってくれる家族や信者さんたちがあればこそと常に感謝し手を合わせている。さて、包丁の使い方に「上手切らず、下手切らず」の戒めがある。上手な人は誤って自分の指を切ることはない。また下手な人は用心して包丁を扱うのでこれもまた切らない。ところが一応は使えるようになった者が、ふと油断するときに危ないという戒めである。もうじき修養科生の名札が赤から黄色へと変わろうとしている。こんなときこそ「上手切らず、下手切らず」の戒めを大事にしたいものである。

(香)

昭和50年 (1975年)	立教138年
10 . 26 作備分教会移転	5 . 26 今津野分教会移転
9 . 25 笠岡語所増築	5 . 26 今津野分教会三代会長佐藤 馨任命(二代会長東風上春夫辞任)
8 . 26 八尋分教会附属建物増築	4 . 18 三代会長夫人・上原くにゑ つとめ人衆のおゆるし頂く
8 . 2 大教会准承事・米府分教会二代會長三代斎世出直(七七歳)	1 . 29 おてふり祭儀式地方研修会 各地で開催
6 . 29 大教会理事・島根分教会四代会長門脇一教出直(七八歳)	1 . 26 教祖九十年祭おやさと講習会開催(全教会長対象)
5 . 26 今津野分教会を府庄分教会と改称	
鎮座祭：七月五日 奉告祭：七月六日	
新所在地：広島県三原市八幡町本庄七百四十五番地の二 旧所在地：広島県御調郡大字津鯉六百四十七番地	
1 . 26 教祖九十年祭三年千日第三年目	

昭和49年 (1974年)	立教137年
11 . 26 三代会長上原繁雄 検定会委員委嘱される	11 . 21 驛家分教会所属変更(服部分教会から神邊分教会)
鎮座祭：昭和五十一年十二月八日 奉告祭：昭和五十一年十二月九日	11 . 26 川島郷分教会建築模様替
海松ヶ岡分教会移転	11 . 26 川島郷分教会臨時祭典日変更
旧所在地：岡山県笠岡市笠岡七百九十四番地 新所在地：岡山県笠岡市笠岡五千七十七番地	
鎮座祭：十二月十日 奉告祭：十二月十二日	
この年、五月一日から七月二十一日まで教祖九十年祭地方講習会が開催された。また青年会では、ハワイで青年大会が開催され、日本から多数の青年委員が出席参加した。一月五日には稿本・天理教教祖伝逸話編の第一集が刊行され翌昭和五十年十月二十六日にかけて第四集までが出版された。後に一冊に纏められ、天理教教祖伝逸話編として出版される。教祖九十年祭活動三年千日の中の年として、活発な布教活動が展開された。	
この年の大教会年間統計 初席者八百二十九人 おさげの理拝戴者四百八十五人 修養科修了者七百七十六人 教人登録百三十五人 教人総数二千九十九人 よふほく総数九千三百十六人。全教よふほく総数七十八万八千四百八十四人。	